

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 福岡県 】

1 実践テーマ	【 I V 】
2 実施対象者	朝倉市立秋月小学校 1年生 18名 2年生 20名 3年生 26名 4年生 17名 5年生 24名 6年生 23名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（特別活動 児童集会） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	○ 日常的に「観音ピック」として楽しんでいる、縄跳び、ボール投げをもとに全校児童が参加できる種目を考えて「秋小オリンピック～観音ピック集会をしよう～」を行うことで、スポーツを楽しむ心を育てる。 ○ 運営で参加する、選手で参加する、サポーターで参加することを通して、オリンピック・パラリンピックへの関心を高める。
5 取組内容	(1) 事前の活動（1月15日実施）1年～6年 学校独自「オリンピック・パラリンピックについて知ろう」 東京2020大会への関心を高めるために、映像資料を視聴した後、東京2020大会の3つの基本コンセプトについて、どのような工夫がされているかをそれぞれの学年で考えた。一人ひとりががんばること、スポーツはいろいろな人が楽しむことができるように工夫していること、スポーツの楽しさを世界中に広げるためにオリンピックを続けていくことなどの工夫に気付くことができた。 (2) 本時の活動 特別活動「観音ピック集会をしよう～秋小オリンピック～」 ① 秋小オリンピックのスローガンを考えよう（委員会活動） 事前の活動で学んだ東京2020大会の3つの基本コンセプトをもとにして、運営を担当する委員会が中心となって、スローガンを考え、そのスローガンを達成できる種目を考えた。子ども達は、「全員が自己ベスト」「多様性と調和」「未来への継承」から、「一人一人ががんばること」「みんなと仲良くがんばること」「がんばりをつなげていくこと」の3つの秋小オリンピックのスローガンを考えることができた。また、競技については、日頃取り組んでいる競技から、参加者を班ごとに決めて実施すること、観音ピックメダリスト

の演技を発表すること、学級チャレンジのドッジボールラリーを全学年で行うことが決まった。

② 参加方法を話し合おう（縦割り班会）

縦割り班で集まり、秋小オリンピックのスローガンと集会の種目を発表した後、班ごとに、誰がどの種目に参加するか、準備を誰がするか、どのように応援するか等について話し合った。これを通して「運営で参加する」「選手で参加する」「サポーターで参加する」のそれぞれの参加の方法があることに気付くことができた。



写真1 縦割り班会

③ 観音ピック集会をしよう～秋小オリンピック～（児童集会）

右記のプログラムにそって担当委員会が進行をしながら全校児童（縦割り班12班）、全職員で秋小オリンピックを行った。

資料1は開会式の様子である。オリンピック・パラリンピックの雰囲気づくりを行うため、音楽を流し行進を行った。ここでは、運営を担当したボランティア委員会が進行した。

競技は、まず班対抗種目の大縄跳びとボール運びリレーを行った。全員がどちらかの種目に参加した。大縄跳びは、八の字跳びと一斉跳びのどちらかを班で決めてよかったため、班ごとに出場選手と種目を工夫して楽しむことができた。次に、1学期から取り組んだ「観音ピック」の金メダリストの演技披露を行った。鉄棒では「腕立て前回り・後ろ回りの連続」縄跳びでは「はやぶさ」一輪車技では「メリーゴーランド」に、大きな拍手と歓声があがった。また、来年度から観音ピック「プレイシングの部」の種目になる「的あて」の紹介を行った。最後に、「学級チャレンジ」の記録会を行った。チャレンジ内容は、学校の課題である投げる力を高めるために全校で取り組んだ「ドッジボールラリー」とした。どの学年も、2学期より記録を伸ばすことができた。

競技後は、表彰式を行った。それぞれの種目ごとの表彰と学級チャレンジの記録を発表した。それぞれのがんばりに大きな拍手があった。

平成30年度秋小オリンピック 次第

1 開会の準備会
2 選手宣誓
3 秋小オリンピック実行委員長の挨拶
4 ルール説明
5 競技
6 大縄チャレンジ
前半 1,3,5,7,9,11班
後半 2,4,6,8,10,12班
① ボール運び
② ボール運びし
③ 班から4名の班から3班から1班
④ 縄跳びの技披露
⑤ 輪車技の披露
⑥ エントリー
⑦ 学年別
⑧ 6年生 ⑨ 4年生 ⑩ 1年生
※ オリンピックの旗 入場行進時の旗の移動
7 表彰式
8 閉会の旗



資料1 開会式の様子



資料2 縦割り班対抗競技



資料3 観音ピックメダリスト発表



資料4 学級チャレンジ

6 主な成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1 学期から取り組んできたことのまとめとして「秋小オリンピック」を行ったことで、運営に参加すること、選手として参加すること、サポーターとして参加する体験をすることができ、それぞれの立場でスポーツを楽しむことができた。 ○ 事前の活動を設定して「秋小オリンピック」を行ったことで、東京 2020 大会の認知が高まった。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校の特色的な活動である「観音ピック」活動と関連させて「秋小オリンピック」を設定したこと ○ 全児童が自分のできることで参加できるように、縦割班対抗競技、学級チャレンジ、メダリスト紹介と内容を工夫したこと
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1 年間のまとめとして 3 学期（1 月）に設定したが、インフルエンザ流行と重なり期日を変更した。時期の検討が必要だった。 ○ 保護者への参加を呼びかけたが参加が少なかった。保護者と連携した活動にしていく。
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> ○ 次年度は、4 月から子ども達にも「秋小オリンピック」の時期と内容を知らせ、オリンピック・パラリンピックへの関心を高めながら、見通しを持って取り組むことができるように教育課程に位置づける。